

2025年度事業報告

(2025年4月1日から2026年3月31日)

1 学術研究会、学術講演会の開催

(1) 学術大会について

第66回日本神経学会学術大会を下記のとおり開催した。現地開催とWEBシステム利用の一部ハイブリッド方式による開催とした。

- ・大会長 望月秀樹 大阪大学大学院医学系研究科神経内科学教授
- ・副大会長 永井義隆 近畿大学医学部脳神経内科教授
- ・会期 2025年5月21日(水)から5月24日(土)までの4日間
- ・会場 大阪国際会議場、リーガロイヤルホテル大阪

(2) 学術大会運営について

① 第70回学術大会大会長を選出した。

花島律子 鳥取大学医学部医学科脳神経医科学講座脳神経内科学分野教授

② 第67回学術大会を神奈川県で開催するため、その準備を進めた。

- ・大会長 西山和利 北里大学医学部脳神経内科学主任教授

2 学会誌の発行

(1) 臨床神経学の発行

機関誌「臨床神経学」65巻4号～66巻3号の全てを通常号発行した。また、学術大会抄録はサプリメントとして発行した。いずれも電子ジャーナルである。

(2) 英文機関誌の発行

英文機関誌「Neurology and Clinical Neuroscience」(Volume 13, Issue 3～Volume 14, Issue 2)を、隔月ごとに電子ジャーナルで発行した。

(3) 診療ガイドライン作成

① HTLV-1関連脊髄症(HAM)診療ガイドライン2025、細菌性髄膜炎・単純ヘルペスウイルス脳炎診療ガイドライン2026を出版した。

② 神経疾患の遺伝子診断ガイドライン、デュシェンヌ型筋ジストロフィー、認知症疾患診療ガイドライン、脊髄小脳変性症・多系統萎縮症診療ガイドライン、てんかん診療ガイドライン、パーキンソン病診療ガイドラインの改訂版作成を進めた。

3 啓発活動

(1) 広報活動

① 会員向けのニュースレター第11号を発行した。

② 本学会認定施設で行われる脳神経内科を紹介する説明会やセミナー等の企画を、本学会ホームページで紹介する事業を実施した。

③ レジナビフェア@東京ビッグサイトに6月に出席、レジナビフェアオンライン西日本Weekに7月に参加した。

④ 「医学生・研修医のための脳神経内科ウェブセミナー」を9月に開催した。

⑤ resident ホームページで「各施設の医局紹介」と「未来の脳神経内科」の記事の更新、学会主催イベント紹介を行った。

- ⑥ サマーキャンプを九州・沖縄地方会支部の主催により長崎市で実施した。
- (2) 脳神経内科標榜の感謝状発行について
「脳神経内科」「神経内科」の標榜をしている開業医に対して感謝状を贈呈した。
- (3) 脳神経内科勤務医の感謝状発行について
神経内科専門医として20年以上診療されている脳神経内科勤務医（大学・研究所以外の先生方）に対して感謝状を贈呈した。
- (4) 医学生を対象とした学術大会への参加支援について
医学生を対象とした学術大会への参加支援（交通費補助）については、支援した学生の数は73名であった。
- (5) 脳神経内科フォーラムの活動支援
脳神経内科フォーラムが企画・実施する脳神経内科と神経疾患を広報する活動を支援した。

4 研究奨励

日本神経学会賞を選考した。

学術研究部門

門脇 淳 大阪大学医学系研究科神経内科学講座

「多発性硬化症の病態に関する研究」

森 英一朗 奈良県立医科大学医学部未来基礎医学

「相分離研究を通じた ALS の病態解明と新規治療薬の開発」

診療教育部門

豊田 一則 国立研究開発法人国立循環器病研究センター脳血管部門

「脳梗塞血栓溶解療法をわが国に定着させるための啓発・研究・診療・教育」

5 研究推進

- (1) 研究医育成のため、「研究医育成フェローシップ事業」の開始について、次年度からの実施に向け、要綱等の準備を進めた。
- (2) 産官学連携について
- ① 研究シーズの企業導出サポート事業
第66回学術大会の一般演題から応募があった演題に加えて、一般公募を行い、応募のあった8件のうち3件に対して研究支援を行った。
- ② 産・官・学連携による若手創薬研究会事業
「産官学イノベーションスクール」を2026年2月26日（木）に初めての現地とWEBによるハイブリット開催を行った。
- ③ 田辺ファーマ医学教育助成事業
田辺ファーマからの教育助成により以下2件の事業を実施した。
- ・「ALS の患者・市民参画 Web」を2025年10月4日（土）に現地開催とWEBシステム利用の一部ハイブリッド方式にて開催した。
 - ・「MS、NMOSD を多角的に治療する：早期診断から社会資源の活用まで」を2025年12月20日に現地開催とWEBシステム利用の一部ハイブリッド方式にて開催した。
- (3) 他団体との連携協力
神経内科学・脳科学に関する研究を推進するために、日本学術会議、日本医学会、日本脳科学

関連学会連合、そして関連する他学会等と連携・協力した。

6 専門医及び教育施設の認定

(1) 専門医

① 第51回専門医試験を次のとおり実施した。

- ・第1次試験 2025年10月4日(土)(都市センターホテル)
合格者数 239名
- ・第2次試験 2025年11月9日(日)(都市センターホテル)
合格者数 237名

② 第31回専門医認定更新を実施した。

2025年度末専門医数は、7,080人である。

(2) 教育施設

① 施設認定更新

2026年4月1日から認定する施設認定について、認定手続き(新規及び更新)を実施した。2025年度末認定施設数は、802施設である。

② 指導医認定

2026年4月1日から認定する指導医認定を実施した。また、2026年3月31日で認定期間が満了となる指導医の認定更新を実施した。2025年度末指導医数は、3,383人である。

③ 特別連携施設制度について

指導医あるいは専門医が在勤していない小規模施設において、教育施設として連携することによって専門医研修ができる特別連携施設制度は2025年度末で45施設である。

(3) 専門医制度

① 専門医制度の状況に係るWEB説明会を2026年1月12日に開催した。

② 2025年度に初めての日本専門医機構による脳神経内科専門医155名が認定された。

7 会員を対象とした教育及び啓発活動

(1) 生涯教育セミナー

第66回学術大会時に第22回生涯教育セミナー(レクチャー・ハンズオンセミナー)を開催した。参加者数は、のべ1,154人であった。

(2) 専門医育成教育事業

① 第66回学術大会時に、第25回専門医育成教育セミナーをWEBシステム併用で開催した。受講者数は、311名であった。

② 2025年12月14日(日)にクロスウェブ幕張にて第26回専門医育成教育セミナーを実施。受講者数は、62名であった。

(3) メディカルスタッフ教育事業

第66回学術大会時に、第11回メディカルスタッフ教育セミナーを大阪国際会議場において開催し、参加者数は53人であった。

(4) 卒前・初期臨床研修教育事業

教育実習機器(診察用ハンマー)を、卒前のポリクリ実習や初期研修医が脳神経内科の臨床実習を効果的に行えるようサマーセミナー参加者等に配付した。

(5) 特別教育研修会

第9回特別教育研修会（脳卒中・てんかん・頭痛・認知症・パーキンソン病コース）を、2025年8月10日（日）に仙台国際センターにおいてハイブリッド開催した。参加者数は、1,553名であった。

(6) 教育コンテンツ配信事業

① e-ラーニングシステムの運用

専門医単位を取得できるe-ラーニングシステムを運用した。

② 画像システムの整備

静止画像を教育用に活用する画像システムの運用をした。

(7) Excellent Teacher 表彰事業の実施

学会主催の教育セミナーの講師として教育活動に貢献した会員5名を表彰した。

(8) 会員の研修支援事業の実施

海外研修（留学）6名、国内研修（滞在研修・通院研修）2名の支援を実施した。

(9) 学術大会時の教育プログラムについて

第67回学術大会時の教育プログラムを企画した。同大会で実施予定である。

8 診療向上のための活動

(1) 令和8年度診療報酬改定最終提案書提出

令和8年度診療報酬改定に向けて最終提案書を提出したが、2026年1月16日に医療技術の評価について案が発表され、神経学会から提出した6案件はいずれも改定に向けた対応は行われぬとの評価がされた（医学的な有用性が十分に示されていない等の理由）。

① 医療技術評価提案書（保険未収載技術用）

- ・血清コレステロール測定（血液）
- ・難治性片頭痛・三叉神経自律神経性頭痛指導料
- ・唾液腺内注射（ボツリヌス毒素を用いた場合）

② 医療技術評価提案書（保険既収載技術用）

- ・遠隔脳波診断（デジタル脳波の遠隔判読）
- ・経管栄養・薬剤投与用 カテーテル交換法

(2) 厚生労働大臣等への要望書提出

① 薬理作用に基づく医薬品の適応外使用事例（アセメタシン）

② ロザノリキシズマブとして1週間間隔で6回皮下投与製剤の在宅自己注射指導管理料算定対象薬剤への追加

③ 未承認薬・適応外薬の要望（インデラル本態性振戦）

④ ニューロファシン155抗体測定キット、コンタクチン1抗体測定キットに関する要望書

⑤ 静注用人免疫グロブリン製剤の安定供給に係る要望書

⑥ 抗FcRn抗体フラグメント製剤 エフガルチギモド皮下注シリンジ製剤の在宅自己注射保険適用に関する要望書

⑦ 未承認薬・適応外薬の要望（マドパー配合錠）

⑧ （仮）脳脊髄液LOTUS測定用ELISAキットの臨床性能試験実施について

⑨ パーキンソン病治療剤の安定供給に関する要望（5件）

⑩ 安定供給継続に関する要望（ダントリウムカプセル25mg）

- ⑪ 安定供給継続に関する要望（共和薬品工業ほか23件）
 - ⑫ 安定供給継続に関する要望（日医工3件）
 - ⑬ 安定供給継続に関する要望（ノイロビタン配合錠）
 - ⑭ 安定供給継続に関する要望（リバスチグリン貼付剤）
 - ⑮ 安定供給継続に関する要望（住友ファーマ3件）
 - ⑯ 安定供給継続に関する要望（エチゾラム0.25mg錠「EMEC」/1mg錠「EMEC」）
 - ⑰ 安定供給継続に関する要望（レベチラセタム錠500mg）
 - ⑱ テクネピロリン酸静注の医薬品の適応外使用事例の申請
 - ⑲ 在宅自己注射指導管理料及び注入ポンプ加算等への対象追加の要望
- (3) 日本医師会疑義解釈委員会から審議依頼事項
- ① 医薬品 7件
 - ② 医療機器・体外診断用医薬品 4件
- (4) 医薬品の供給停止手続き等 17件

9 小児一成人移行期医療について

小児一成人移行医療対策委員会は神経内科領域における委員会活動現状を臨床神経学に掲載した。また、小児から成人診療科への移行を語る会をWEB開催し、小児診療科と成人診療との連携推進を図った。

10 遺伝医療に関する課題対策について

遺伝医療に関する課題対策委員会において、脳神経内科における遺伝診療に関するWebセミナー「明日から役立つ遺伝診療ステップアップ講座～こんな時どうする？～」を10月27日に開催し、人材育成の推進を図った。

11 国際協力事業

(1) アウトリーチ型海外教育事業

2025年4月26日に開催されたEANF2025（台湾）に、シンポジスト・座長を派遣しシンポジウムを開催した。台湾、韓国、日本のboard meeting memberで会議を行い、今後の継続とその方式を話し合った。

2025年8月8日から10日に開催されたASNA（インドネシアバリ）に、2023年に締結したMOUに従ってシンポジストを派遣し合同シンポジウムを行った。

(2) WFN 協力事業

ソウルで開催されたWCN2025にWFN代表者を派遣したほか、多数の出席を促すため広報活動および参加費援助を行った。

12 その他の事業

(1) 災害時医療支援の充実

- ① 神経難病リエゾンの更新および協議会を開催した。
- ② 会員向けに神経難病リエゾンのメンバーリストを掲載した。
- ③ 2025年10月11日（土）に、「つながる備えー神経疾患患者の災害支援ネットワーク最前線ー」と題して災害対策委員会ウェブセミナーを開催した。

(2) キャリア形成促進事業

会員のみならず一般の医療従事者も対象として以下の2回のウェビナーを実施した。

- ① 2025年12月20日(土)開催 脳神経内科医として生きるために知りたいこと
- ② 2026年3月22日(日)開催 ワークエンゲージメントを高めてバーンアウトを予防しよう

(3) 臨床医会設立準備について

日本脳神経内科臨床医会設立準備委員会において、診療科としての脳神経内科を広く知ってもらい、コモン・ディゼイズに対する脳神経内科の貢献を広めるための市民公開講座を4都市(金沢市、横浜市、宇都宮市、京都市)において開催した。

(4) 地方会支部の課題調査検討について

地方会支部課題調査検討特別委員会が行った今後の地方会への財政的支援のあり方について検討するためのアンケート調査結果を基に、今後の地方会支部運営についての提言をまとめた。

(5) セクションにおける自発的活動の実施について

事業計画が承認された6セクションについて、財政的な支援を行った。

13 一般社団法人としての運営

(1) 理事選挙の改正

社員総会において代表理事推薦理事の新設、理事定数の増加、理事選挙優先枠の改正を行った。

(2) 代議員の選出について

社員総会において支部選出代議員の選挙結果の報告を行うとともに総会選出代議員の選出を行った。

(3) 理事選挙の実施

2026年社員総会で選出される理事選挙を2026年2月19日から3月5日まで行い、3月8日に開票し、3月9日に選挙結果を公示した。